

令和2年度豆類振興事業助成金(試験研究)の成果概要の要約

④課題:インゲンマメモザイクウイルス抵抗性と機械収穫適性を持つ俵型大納言小豆品種の育成(2~4年度)

代表者:京都府農林水産技術センター生物資源研究センター 主任研究員 伊藤寿美子

目的

高級和菓子の原料である京都府産の大納言小豆において、インゲンマメモザイクウイルス(以下、BCMV)抵抗性と機械収穫適性を有する有望3系統の現地適応性を評価して特性評価を行う。また、新たなBCMV抵抗性遺伝資源を探索する。

成果

①現地適応性評価

・有望3系統を密植栽培したが、現地適応性には問題がなかった。

②品種登録に向けた特性評価

・莢の色、百粒重に関して、京都大納言と育成系統では、莢の色で京都大納言が黄白色、育成系統は淡褐色、百粒重は京都大納言が大、育成系統はかなり大と区別性があった。

③新たなBCMV抵抗性遺伝資源の探索

・京都府保存の小豆遺伝資源94系統から、モザイクウイルスに抵抗性を示した10系統を新たに1次選抜した。

小豆育成系統の草姿(右から3系統)

